



2020年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2019年7月31日

上場会社名 富士紡ホールディングス株式会社
 コード番号 3104 URL <https://www.fujibo.co.jp/>
 代表者 (役職名) 取締役会長兼社長 (氏名) 中野 光雄
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 吉田 和司
 四半期報告書提出予定日 2019年8月9日
 配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
 TEL 03-3665-7612

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第1四半期の連結業績(2019年4月1日～2019年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第1四半期	9,501	14.9	1,003	21.6	1,055	19.1	574	0.8
2019年3月期第1四半期	8,268	7.2	825	21.7	886	28.7	579	28.1

(注) 包括利益 2020年3月期第1四半期 559百万円 (6.8%) 2019年3月期第1四半期 599百万円 (37.2%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第1四半期	50.24	
2019年3月期第1四半期	50.64	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第1四半期	51,076	32,765	64.2
2019年3月期	52,270	32,778	62.7

(参考) 自己資本 2020年3月期第1四半期 32,765百万円 2019年3月期 32,778百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期		50.00		50.00	100.00
2020年3月期					
2020年3月期(予想)		50.00		50.00	100.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日～2020年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	18,600	4.8	1,700	2.6	1,800	2.5	1,150	3.7	100.51
通期	38,700	4.3	3,800	0.5	4,000	0.4	2,600	2.4	227.18

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料8ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

2020年3月期1Q	11,720,000 株	2019年3月期	11,720,000 株
2020年3月期1Q	281,986 株	2019年3月期	281,911 株
2020年3月期1Q	11,438,045 株	2019年3月期1Q	11,438,650 株

期末自己株式数

期中平均株式数(四半期累計)

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用や所得環境の改善を背景に緩やかな回復基調が続きました。一方、米中貿易摩擦や中国の景気減速懸念など海外経済の不確実性により、先行きは不透明な状況で推移しました。

このような経営環境の下、当フジボウグループは、2017年から2020年の4年間を計画期間とする中期経営計画『加速17-20』の基本戦略である「収益性の高い研磨材・化学工業品事業の積極的な拡大」と、「繊維事業の構造改革による反転攻勢」に取り組んでおります。計画期間の後半2年間、「成長の加速」ステージと位置づける当期は、研磨材・化学工業品事業では、これまで進めてまいりました研究開発力、生産能力の強化を各事業の拡大に発現させております。繊維事業では、事業環境の変化に対応するため、さらなる構造改革を進めております。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は前年同期比1,232百万円(14.9%)増収の9,501百万円、営業利益は178百万円(21.6%)増益の1,003百万円、経常利益は168百万円(19.1%)増益の1,055百万円となりました。これに特別損益、法人税等を加減した結果、親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期比4百万円(0.8%)減益の574百万円となりました。

セグメント別の業績は以下の通りであります。

①研磨材事業

主力の超精密加工用研磨材は、半導体デバイス用途(CMP)等は米中貿易摩擦の影響も懸念されましたが、堅調に推移しました。ハードディスク用途はユーザーの一時的な在庫調整により減少しましたが、液晶ガラス用途は需要が回復しました。また、稼働を開始した台湾新工場の試験・試作などの費用が増加しました。

この結果、売上高は前年同期比74百万円増収の2,734百万円、営業利益は6百万円減益の504百万円となりました。

②化学工業品事業

機能化学品および医薬中間体などの受託製造は、電子材料用機能化学品を中心に、農薬中間体、医薬中間体など全ての分野で堅調に推移しました。中国における環境規制の影響や高い品質を要求される化学工業品において、生産の日本国内回帰の傾向が続いており、柳井工場・武生工場ともフル稼働となりました。

この結果、売上高は前年同期比1,255百万円増収の3,223百万円、営業利益は307百万円増益の369百万円となりました。

③繊維事業

アンダーウェアを中心とする繊維製品は、インターネットなど新規チャネルでの販売は拡大を続けておりますが、大手量販店における衣料品売場の縮小に加え、プライベートブランドへの転換の影響を受け、メンズインナー定番品の販売の減少が続きました。繊維素材では、原材料価格高止まりに対応するための販売価格への転嫁、採算性の低い商材からの撤退を進めるとともに、設備の新鋭化による高付加価値・高採算商材の品質および生産性の向上に取り組みました。

この結果、売上高は前年同期比405百万円減収の2,553百万円、営業利益は147百万円減益の60百万円となりました。

④その他

貿易事業は、中米カリブ海地域向け自動車車両の三国間貿易が回復傾向となってきました。化成品事業は、医療機器用部品が堅調に推移しましたが、デジタルカメラ用部品が苦戦しました。また、2018年10月1日付で取得し連結対象となったプラスチック射出成形用金型子会社の売上高・利益が増加しました。

この結果、売上高は前年同期比308百万円増収の989百万円、営業利益は24百万円増益の69百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

前連結会計年度末に比べて流動資産は1,125百万円減少の18,733百万円、固定資産は69百万円減少の32,342百万円となりました。これは、現金及び預金や売上債権が減少したことなどによります。

この結果、資産合計は1,194百万円減少の51,076百万円となりました。

(負債)

前連結会計年度末に比べて流動負債は1,225百万円減少の10,943百万円、固定負債は44百万円増加の7,367百万円となりました。これは、借入金や未払法人税等が減少したことなどによります。

この結果、負債合計は1,181百万円減少の18,310百万円となりました。

(純資産)

純資産合計は前連結会計年度末に比べて13百万円減少し、32,765百万円となりました。これは、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により株主資本が増加しましたが、その他の包括利益累計額が減少したことによります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループの業績は、全体としては概ね予想通りに推移しているため、第2四半期累計期間および通期の業績予想につきましては2019年5月15日公表時から変更していません。なお、業績予想は現時点で入手可能な情報に基づいておりますが、実際の数値は今後様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,895	4,500
受取手形及び売掛金	9,369	8,703
商品及び製品	2,191	1,998
仕掛品	1,924	2,036
原材料及び貯蔵品	1,118	1,118
その他	376	438
貸倒引当金	△17	△62
流動資産合計	19,858	18,733
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	6,903	6,828
機械装置及び運搬具（純額）	5,721	5,615
土地	13,912	13,916
その他（純額）	2,588	2,809
有形固定資産合計	29,126	29,169
無形固定資産	828	812
投資その他の資産		
その他	2,456	2,360
貸倒引当金	△0	△0
投資その他の資産合計	2,456	2,360
固定資産合計	32,411	32,342
資産合計	52,270	51,076

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,576	3,407
電子記録債務	1,040	1,180
短期借入金	1,879	1,147
未払法人税等	581	161
引当金	692	368
その他	4,397	4,677
流動負債合計	12,168	10,943
固定負債		
長期借入金	426	368
退職給付に係る負債	4,860	4,876
資産除去債務	307	308
その他	1,728	1,813
固定負債合計	7,323	7,367
負債合計	19,492	18,310
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,673	6,673
資本剰余金	2,174	2,174
利益剰余金	22,455	22,458
自己株式	△573	△573
株主資本合計	30,729	30,732
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	550	484
繰延ヘッジ損益	△6	△1
土地再評価差額金	1,270	1,270
為替換算調整勘定	238	274
退職給付に係る調整累計額	△3	5
その他の包括利益累計額合計	2,048	2,033
非支配株主持分	0	0
純資産合計	32,778	32,765
負債純資産合計	52,270	51,076

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年6月30日)
売上高	8,268	9,501
売上原価	5,314	6,280
売上総利益	2,954	3,220
販売費及び一般管理費	2,129	2,217
営業利益	825	1,003
営業外収益		
受取利息	1	1
受取配当金	23	25
固定資産賃貸料	58	66
その他	14	4
営業外収益合計	97	98
営業外費用		
支払利息	2	5
固定資産賃貸費用	16	15
為替差損	—	11
その他	16	14
営業外費用合計	35	46
経常利益	886	1,055
特別利益		
固定資産売却益	—	0
特別利益合計	—	0
特別損失		
固定資産処分損	13	36
減損損失	8	6
構造改革費用	—	96
特別損失合計	22	139
税金等調整前四半期純利益	863	915
法人税、住民税及び事業税	132	226
法人税等調整額	152	114
法人税等合計	284	341
四半期純利益	579	574
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△0	△0
親会社株主に帰属する四半期純利益	579	574

四半期連結包括利益計算書
第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
四半期純利益	579	574
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	74	△65
繰延ヘッジ損益	2	4
為替換算調整勘定	△64	36
退職給付に係る調整額	9	9
その他の包括利益合計	20	△15
四半期包括利益	599	559
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	599	559
非支配株主に係る四半期包括利益	△0	0

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

原価差異の繰延処理

定期的な修繕が特定の四半期に行われるために発生する原価差異は、予定原価が年間を基礎に設定されており、原価計算期間末までに解消が見込まれるため、当該原価差異を繰り延べて処理する方法を採用しております。

(セグメント情報等)

I 前第1四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高および利益または損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連 結損益計 算書計上 額(注)3
	研磨材 事業	化学 工業品 事業	繊維事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	2,659	1,968	2,959	7,587	680	8,268	—	8,268
セグメント間の内部 売上高又は振替高	2	—	0	3	0	3	△3	—
計	2,662	1,968	2,960	7,591	680	8,272	△3	8,268
セグメント利益	511	62	207	780	45	825	△0	825

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、自動車関連事業、化成品事業および精製事業等を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額には、セグメント間取引消去が含まれております。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失またはのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

各報告セグメントに配分していない全社資産において、保有会社における利用計画がなく時価も下落している固定資産について帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として認識しました。

なお、当該減損損失の計上額は、当第1四半期連結累計期間においては8百万円であります。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高および利益または損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連 結損益計 算書計上 額(注)3
	研磨材 事業	化学 工業品 事業	繊維事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	2,734	3,223	2,553	8,511	989	9,501	—	9,501
セグメント間の内部 売上高又は振替高	2	—	—	2	—	2	△2	—
計	2,736	3,223	2,553	8,513	989	9,503	△2	9,501
セグメント利益	504	369	60	934	69	1,004	△0	1,003

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、自動車関連事業、化成品事業および精製事業等を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額には、セグメント間取引消去が含まれております。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失またはのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

各報告セグメントに配分していない全社資産において、保有会社における利用計画がなく時価も下落している固定資産について帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として認識しました。

なお、当該減損損失の計上額は、当第1四半期連結累計期間においては6百万円であります。